

運輸部



『ニューくだかⅢ』は、総トン数／19トン、全長／19・70m、航海速力／24ノット（時速に換算すると約43キロ）、旅客定員／80

旧船舶の『ニューくだか』は、エンジンの経年劣化による速力の低下、内装壁材及び座席シートの傷み等老朽化が著しく、高速性・快適性を欠き不経済船となっていました。

また、久高島は古くから「神の島」と呼ばれ、神事や祭事が盛んに行われているところであり、世界遺産として登録された斎場御嶽とも関係が深く、斎場御嶽を訪れた観光客が久高島に癒しと安らぎを求め訪れていることから、地域の交通の足を整備するとともに、島民のライフラインとなることを考慮した代替船舶の建造が望まれていました。



名、船型はロングノーズバウ※を採用し、燃費節減、波に強く、スピードが増すほど安定性が高まる構造になっており、従来の『ニューくだか』では片道15分の航海時間を3分短縮するとともに、高齢者や車いす利用者に配慮した手すり、トイレ、通路、スロープ、車いす収納スペース等バリアフリーに対応した設備や省エネ装置を施し、優しく・安全で快適な乗心地となっています。



『ニューくだかⅢ』の就航に伴い、海上輸送が更に高速化され、乗客の利便性の向上や安定的な旅客輸送の確保により、地域経済の発展と活性化が一層促進されることが期待されています。

※ロングノーズバウ…船首船底を細長くすることにより、波を押しのける時の抵抗を減少させ、速力のアップと燃費の節約が図られ波浪による船体衝撃を緩和するための船型。



『ニューくだかⅢ』は、昭和63年以来就航していた『ニューくだか』の代船で、昭和27年に竣工した初代の『新宝丸（4・77トン）』から数えて5代目になり、平成21年8月27日より就航しました。当航路は、久高海運合名会社により『フェリーくだか』と『ニューくだかⅢ』の2隻体制で運航が行われています。

久高く安座真航路に 高速旅客船『ニューくだかⅢ』就航